



# 第46回NM-GCOEセミナー

## Olaf Schaefer 先生

(Boehringer Ingelheim 神戸医薬研究所・  
薬物動態安全研部長)

2011. 1. 13

薬学研究科  
2階大会議室

~DMPK (Drug Metabolism & Pharmacokinetics) at Boehringer

Ingelheim- benefits from globally integrated drug development-~



講師: Olaf Schaefer先生

今回はベーリンガー・インゲルハイムのOlaf Schaefer先生に講演していただきました。新薬を創りだすのは非常に困難であり、新薬候補として挙げた物質のほとんどが非臨床試験や臨床試験の過程でドロップアウトしてしまいます。しかし、近年の薬物動態学の発展により、薬物動態が原因でドロップアウトしてしまう化合物の数が減少していることが示されていました。これは、トランスポーターの研究を通して薬物動態に関わっている私たちにとっては大変励みになることでした。また、新たな薬物動態の研究法についても in vivo、in vitro とともに分かりやすく解説してくださり、大変勉強になりました。新しい研究法を用いることで、よりローコストでの新薬の開発が行えるようになるのではないかと感じました。また、ヨーロッパ、アメリカ、日本と世界の3か所に研究拠点を置き、互いを高めあうことでより高度な研究を進めて行くというベーリンガー・インゲルハイム社の姿勢に深く感銘を受けました。私ももっとグローバルな視点を持ち、社会に出て行きたいと感じました。

富岡 佑介 (薬物送達学分野・大学院生)



### 参加者の感想

日々、目の前の研究に追われている中、世界有数の製薬企業で研究に携わる方の講演を拝聴できることを楽しみにしておりました。薬物代謝酵素の阻害効果や薬物の毒性に関する講演でしたが、特に肺への薬剤投与に関する研究は大変興味深く拝聴させていただきました。また、薬物代謝や薬物動態に関わる話以外にも、製薬会社として薬剤開発を進めていく過程をご紹介いただきました。その中で、分析法の開発やトランスポーター研究などにより、薬物動態に関わる有益な情報が臨床段階前に得られるようになったことで、薬剤開発の効率向上につながったとありました。私たちが普段行っている研究が、企業の創薬につながっていることを実感するとともに、今後の研究の励みにもなりました。さらに、グローバルに展開する企業が大学とリンクして共同研究を行い、創薬が為されていくことも実感でき、非常に有意義な講演会でした。



学部生向けに解説なさっている寺崎教授

1つ1つの質問に丁寧に答えていらっしゃいます



スーツをびしっと着こなし、颯爽と登場の博士。世界をまたにかけた企業者のお話にも、聴講学生も世界に思いを馳せた1コマだったのでは。(支援室)